



度重なる雪害に現場の社員の悲痛な声が噴出!

去る1月11日~12日にかけて、信越本線東光寺・帯織間で444Mが雪を抱えて停車し、15時間立ち往生するという輸送障害以降も、度重なる雪害により新潟支社管内各線区において、大雪やその除雪作業などによる運転見合わせ・運休が多数発生しています。特に1月下旬や2月上旬には記録的な大雪や寒波の影響を受け、この冬は非常に雪害に悩まされる年となっています。その中、昼夜を問わずお客さま輸送、安全・安定輸送確保に向け社員・組合員は奮闘しており、深夜もフル稼働で除雪作業にあっているグループ会社社員もいます。しかし、度重なる雪害に対する現場社員・組合員からの悲痛な声が噴出しています。

「精神的にも体力的にも限界だ！」

現場からは、

- 大雪のため運転見合わせとなっている線区や駅の除雪作業に毎日飛んで回り、精神的にも体力的にももう限界だ。
- 雪害で列車が乱れているため、最近では出勤すれば寝ずの泊まり勤務が続き、憂鬱だ。
- 列車が雪を抱えて停車したことにより踏切の見張りに向かったが、夜通し・日またがりに対応することとなり、長時間拘束され疲労困憊だ。

などといった悲痛な叫びのような声が上がっており、みんな疲弊し雪害は社員の健康・メンタルヘルスにも影響を及ぼしています。

また、現場からはこの他にも雪害に対し、様々な疑問の声も上がっています。

- ◆「午前中に運転再開」とプレス発表したが見込みがずれ込み、「終日運転見合わせ」となる事態がどうして発生してしまうのか？
- ◆雪害だからと言って、普段やらない取扱いをして良いのか？安全の担保はどうしているのか？
- ◆除雪が終わっていないのに、列車を運転するのか？

等々、要員、除雪体制、運行判断、車両、ハード面それぞれの問題や「超勤ありきの業務体制の姿はおかしい」という声も出ています。

私たちは会社の道具や備品じゃない！生身の人間だ！

雪害を乗り越えるために、運転再開準備作業や線路やホーム、車両の屋根上除雪作業などをまさに粉骨砕身社員・組合員一人ひとりが奮闘・尽力して行っています。組合員が夜遅く帰宅して、奥さんから「よくこんな夜遅くまで働けるわね。」と言われるくらいがんばっています。

上記の声は、私たちが職場で聞いたことや常駐を通じて、集約した声の一部です。私たちは冬期の施策・対策の検証や様々な問題点の改善の申し入れなど、問題の解消・労働環境の改善に努めていきます！

私たちは皆さんの声をしっかり受け止め、解消に向けて取り組みます！